ベトナムでの ポランティア体験寄稿

ベトナムで眼科手術をボランティアで行っている服部国 医師に同行した本学医学生の体験を紹介します。



ベトナムの人たちに光を

医学部 6年 河 野 雄 亮



"ベトナムの人たちに光を"と、京都府立医 大出身の服部匡先生は約10年前からボランティ ア活動をしておられます。ベトナムの人々に無 償で白内障手術を行い、また、現地の眼科医に 手術指導も行っておられます。日本国内では、 京都府立医大内に NPO法人を立ち上げ、寄付 集め、人工水晶体の寄贈依頼、薬の寄贈依頼、 講演などの活動にもお忙しいようです。

そんな服部先生とお会いしたのは、私が聖医祭の文化局長をさせていただいた 4 年生の時でした。後輩が前回ベトナムに同行させていただいたご縁で、聖医祭でのご講演をお願いし、それをきっかけにベトナムへの同行が叶いました。

2011年3月5日から11日間、ベトナムへ出かけ ました。首都ハノイでの手術のあと、クアンニ ン省(ハノイから北東へ車で約5、6時間の所で 世界遺産のハロン湾近く)という地方で、一日 に約70名に無償の白内障手術を服部先生含め 3人の医師(2人は先生から指導を受けたベトナ ム人眼科医)で行う予定で、4年の島田真実他 3人のボランティアの人達と現地に向かいまし た。ハノイの手術環境はまだよかったのですが、 クアンニン省の手術室は、窓や扉は開けっ放し、 いつ感染をおこしても仕方がないような環境で 「こんな所で手術をしていいのか」と考えさせ られました。医療器具もままならず、服部先生 は器具持参での手術でした。寄付で集めた抗生 物質も持参して使用しておりますが、劣悪な手 術環境でも術後感染は防げているようで、人間 は強いようです。他の国の医療現場がどのよう なものなのか、日本の医療現場との違いにもと ても興味を持っており、それを肌で感じること ができました。

手術の合間や飲み会の席などで服部先生のお 気持ちや過去の苦労などをお聞きする機会に恵 まれ、そのお言葉には説得力や深みがあり、そ の情熱に触れて自分も熱くなりました。毎年休 暇を取って日本から手伝いに来るメンバー(看 きるく、その人達のモチベーショとを 高く、みんな一人が目標や自分の考えを人た ちに同行させていただき高校時代に医師と思ったがだださを再確認し、 たいと思ったをがしている医師像をベトナムで見つけた気がいたしました。また、世界ではもっと劣悪な医療 事情の国々もあり、日本医療の活躍の場がある のではないかとも感じました。

6年生の今、まずは国家試験に合格することが目前の目標ですが、ベトナムでの熱い気持ちを再び思い出して研修医になったその後も自分のモチベーションにつなげていけたらと思います。

お世話になった服部先生、ボランティアの 方々、本当にありがとうございました。



服部医師 •••

京都府立医科大学卒業

2001年、母校で開催された日本臨床眼科学会で偶然ハノイ国立眼科病院のベトナム人医師に出会ったことがきっかけとなり、2002年よりベトナム国立眼科病院で最先端の内視鏡を駆使した網膜剥離や糖尿病網膜症などの治療、指導をボランティアで始める。

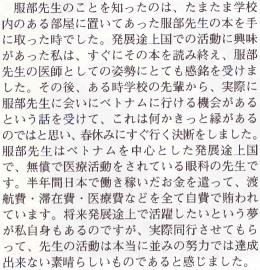
専門は網膜硝子体手術で、日本のトップレベル技術を持つ。ひと月のうちの2週間をベトナムで過ごす。



生忘れられない経験

医学部 4 年

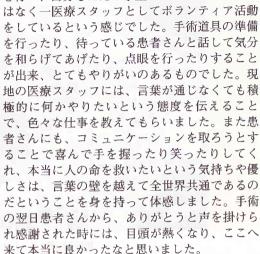




私は、当時5年生の河野雄亮先輩と一緒に、 3月5日~15日の11日間ベトナムを訪れました。 その中で、服部先生に同行させてもらい、中心 地ハノイの国立眼科病院と、地方のクアンニン 省という所に行きました。

国立眼科病院では、市で一番大きな眼科専門 の病院ということもあって、小児から高齢者ま で様々な疾患を持った沢山の患者さんが訪れて いました。服部先生が診察を始めると、患者さ んが次から次へと診察の様子を覗き込んで扉を 開け、狭い所に立ち並んでいました。他の医師 も先生の傍に寄り添って診察を観察していると ころを見て、服部先生は本当に医師にも患者に も待ち望まれている、ベトナムの期待の星であ るのだなと感じました。

地方のクアンニン省では、普段医師がいない 貧しい村へ行き、医療物資を詰め込んで通訳や 他の医師と一緒に2日間手術 を行い、自分もただの学生で



ベトナムに行き服部先生の活動に同行させて いただいて、多くのことを学ぶことが出来まし た。先生の、1つ1つの手術に対して準備から 術後の診察まで全て自分の目で確認し責任を持 って行う熱い姿勢や、患者さんやスタッフから 期待し信頼されている様子を見て、医師として 将来見習いたいと感じました。また、日本では 決して経験出来ないような、ボランティアチー ムの一員として手術の手伝いをさせてもらえた ことは、非常に貴重な経験となり、今後の自分 の大きなモチベーションにもなりました。先生 をはじめベトナムでお世話になった全ての方々 に感謝したいです。患者さんに『将来医師にな ってまたベトナムへ戻って来て、私達を救って ください。』と言われた言葉を忘れず、実現で きるよう頑張ります。





左:服部医師